

北西ノ久保石造塔婆群

中藤 保則 (信州短期大学)

The group of stone-built stupas at Kitanishi no Kubo

Yasunori Nakafuji (Shinshu Junior College)

Abstract: The theme of this paper is to present “The group of stupas at Kitanishi no Kubo”. In 1966 these were found incidentally and dug out by deceased Mr. Yukio Inoue who was the landowner of this area. He had been trying to preserve them and these were designated by Saku-city as historic site in 1974. This group of stupas are regarded as very important historic site at the latest in the middle of Kamakura era. These stupas are located in the center of Shinshu Junior College’s lot and from this spring these are under jurisdiction of our College. Therefore I wish to present the outlines of “The group of stone-built stupas at Kitanishi no Kubo”.

Keywords : stupas, Kitanishi no Kubo, Saku-city’s historic site.

I はじめに

佐久市岩村田にある信州短期大学は、遺跡の上に建てられていると言って過言ではない。周辺には、一本柳遺跡群、上の城遺跡群など、弥生時代中期から古墳・奈良・平安時代の大規模で密度の高い遺跡群が知られており、当該地でも弥生時代の土器片や埴輪片が表面採集され、大規模遺跡の存在が推測されていた。

1966年、現在、校舎とグラウンドの境に当たる低い段丘で、当時、この土地の所有者であった故井上行雄氏が、リング畑の耕土改善作業中に偶然、複数の石造墳墓を発見した。その後の調査によって、さらには69年、駒沢大学による中世墳墓を対象とした調査も実施され、中世の墓域としてこの地域が知られるようになった。なかでも井上氏が発見した墳墓群は、中世墳墓の埋葬形態、供養方法の研究のきっかけとなり、鎌倉中期を下らないものと推定されている。そして、県下にも例を見ない貴重なものとして、74年、佐久市指定文化財(史跡)に指定された。これが北西ノ久保石造塔婆群である。(写真1)

もともと旧中山道の宿場がおかれ、交通の要衝にあった岩村田は、近年、佐久市の中心部として市街地が拡大する傾向にあり、付近の果樹園の宅地化も進んでいた。また、高速網の整備が計画されるなど、開発がさらに加速されることが予測された。そこで、1979年、佐久市教育委員会は、重要遺跡確認調査を実施し、台地上のほぼ全域から弥生時代と古墳時代の住居址等が多数検出され、土器・石器・埴輪片も多量に出土した。

さらに、信州短期大学の設立が決定し、その校舎建設とグラウンドの造成に先立って、1984年と87年の2次にわたり、佐久市教育委員会による大規模な発掘・調査が行われた。⁽¹⁾⁽²⁾

上記の石造塔婆群は、2006年春より信州短期大学の敷地となり、管理も委ねられることになったので、これを機に貴重な文化財の存在と価値をより多くの人に知ってもらいたいという願いから、その概要を紹介するのが、この稿の目的である。



写真1 北西ノ久保石造塔婆群

II 貴重な文化財「石造塔婆群」

井上行雄氏の発見時、下記の塔婆類が鍵の手状に規則正しく配列されていた。

五輪塔	3	一石五輪塔	1	笠塔婆	3
異形塔婆	3	板碑形塔婆	3	不明石器	5

また、1976年にこの地から宋銭が数個発見されており、こ

れも注目に値する事柄とされている³⁾。

井上氏は05年5月に95才で亡くなったが、もともと歴史や考古学が好きで、91.2才の頃まで自転車で一带を走り回り、発掘や研究を続けていたという。一徹で真面目な人柄で、自分が発見したこの貴重な石造塔婆群を、熱意をもって整備・維持を続けた。佐久市に文化財として指定された後も、その姿勢は変わらず、新たな塔婆も発見して列に加えたと思える。たとえば現在、最大の五輪塔の右脇に小さな一石五輪塔(地輪下部より25cm)が並んでいるが、これは指定時の写真には写っていないものである。また、向かって左側の斜面には半ば埋もれた五輪塔も見えている。発掘を行えばさらに新たな塔婆が発見できる可能性もある。

佐久市教育委員会文化財課文化財調査係・羽毛田卓也氏によれば、それ以降もこの規模に及ぶ塔婆群は東信では発見されておらず、また、かつて墓石は10年もたつと、縁があるものもないものも単なる石として石垣や播り鉢などにも転用されていたことから、今後も発見の可能性はきわめて低いという。まさに貴重な文化財として保護し、価値を伝えていかなければならないと思える。

Ⅲ 根井氏か小笠原大井氏一族の墳墓か

ひとつの墳墓は広さ1坪(3.3m²)で、下層に玉石を二重に敷き、その上に厚さ20cmに川砂利を置き、その上にさらに玉石を二重に並べて、その中央部に火葬骨を直接埋葬している。骨壺を用いず副葬品もないが、玉石は千曲川から光沢の美しいものを運んできた。上層の玉石から10cm上に五輪塔の最下部である地輪が据えられている。この形態を持つ墳墓が7基、等間隔に鍵の手状にきちんとならんでいる。

この塔婆群の位置は根井行親居館跡の北東1km、岩村田大井城址の西南2kmにあり、根々井から岩村田に通じる古道に当たっている。この古道の存在は根々井に住む年配の方は知っており、両地区を結ぶ主要な道路だったと思える。そのため、この塔婆群は、根井氏かあるいは小笠原大井氏一族の墳墓と推考されているが、現在ではまだ推測の域をでないという³⁾。今後の研究が待たれるところである。

Ⅳ 重要な「五輪塔」の存在

墳墓のなかでも歴史的な価値が大きいのは、五輪塔である。北西ノ久保石造塔婆群の五輪塔で最大のものは高さが135cmある。水輪の種子(梵語)の周囲には円形に漆が塗られていた。(写真2)

五輪塔はもともと密教において創始された塔形であるが、万法を生成する五種、すなわち五大を形にあらわしたもの

である。五大とは、「地」「水」「火」「風」「空」をいう。また五輪であり五体の意でもある。形と色であらわすと、地輪は方形黄色、水輪は円形白色、火輪は三角形赤色、風輪は半月形黒色、空輪は団形(宝珠形)青色となる。

五輪塔の思想が明確にあらわれたのは、真言宗中興の祖と呼ばれる覚鑿(かくぼん、1095~1143)の著『五輪九字明秘密釈』であるとされている。

多くのものは各輪に五大種子(梵字)または大日如来三身真言などを刻む。本来は形象、つまり我々の心に浮かぶイメージであるが、平安時代末期からは造形物として現れるようになる。その最古のものに関してはいくつか説があるようだが、石造五輪塔として最古のものは、奥州平泉中尊寺の釈尊院墓地にある五輪塔で、仁安4年(1169)の作という⁴⁾。

長野県にもかなり古いものが残されており、在銘最古のものは飯田市文永寺の五輪塔(重文)で、弘安6年(1283)の刻銘があり、鎌倉初期の特色を示し、また、同市中禅寺の五輪塔、丸子町飯沼の五輪塔も鎌倉時代の様式を残しているといわれる⁵⁾。

五輪塔は元来、供養塔として用いられたが、墓上の墓塔、あるいは舍利塔ともなった。鎌倉中期以後は我が国の石塔の主流となり、真言宗だけではなく他の宗派も五輪塔を用いるようになり、それに伴って、地輪は台、火輪は笠、空・風輪は飾りとなっていった。つまり、密教の五大をあらわし、上部は構造上の面から形は小さくはなっているが、五つの輪それぞれが同格の存在感を示していた五輪塔が、ひとつの塔の形状をとるようになったのである。

北西ノ久保の五輪塔は、かなり初期の五大を表現しているように思える。鎌倉中期を下らないと推定されている由縁であるが、ただ、前出の羽毛田氏は、石質や空輪、風輪の比率・形状などから、もう少し時代が下る可能性もあると見ている。もちろんそれがこの五輪塔の価値を減ずるものではないことはいうまでもないだろう。

Ⅴ 信州の鎌倉と周辺に残る五輪塔

前項で述べた長野県に残る五輪塔のうち3基は、いわば隣町にあるため、今年4月に発足した信州短期大学「佐久地域文化研究センター」のメンバー4人で視察にでかけた。そのうちの中禅寺は、信州最古の木造建築、薬師堂(国重要文化財)で知られ、信州の鎌倉と呼ばれる塩田平にある。同寺の五輪塔(総高165.5cm、上田市指定文化財、写真3)は、五大の本義をよく形にあらわしている立派なものである。

また、丸子町飯沼の「竹の花五輪塔」(丸子町指定文化財、139cm、写真4)は、風、空輪は本来のものではないというが、地、水輪は鎌倉後期の洋式を伝えている。

そして、やはり圧巻は上田市舞田にある「金王の五輪塔」(長野県宝、写真 5)であった。総高 212 cmの雄大な五輪塔で、五大の本義が表現されていることが見て取れる。鎌倉時代前期のものとして推定されている⁶⁾。

このようなすぐれた五輪塔を近くで見ることができるのも、目を養う意味でも、比較の上でも幸いといわねばなるまい。

VI おわりに

先に述べたように信州短期大学では「佐久地域文化研究センター」を設立した。地域の文化を研究し、継承し、そして、できる限り広めていきたいという目的である。

地域文化の研究という意味において、佐久平とその周辺はまさに宝庫である。掘り起こせば掘り起こすほど、その魅力がましてくる。また、各分野ですぐれた研究が行われ、多くの実績が積み重ねられている。

今回紹介した「北西ノ久保石造塔婆群」を大きなきっかけにして、私たちも地域文化興隆の一端を担いたいと願っている。

(投稿 2006年 10月 31日、受理 2007年 1月 11日)

参考文献

註 1) 直接引用部分以外にも佐久市教育委員会文化財課文化財調査係・羽毛田卓也氏に多くの教示を得た。

- (1) 『北西の久保』(長野県佐久市岩村田北西ノ久保遺跡第1次調査報告書) 1頁、佐久市教育委員会、1984年 『 』(第2次調査報告書) 1頁、佐久市教育委員会、佐久埋蔵文化財調査センター、1987年
- (2) 『長野県の歴史シリーズ 9、図説・佐久の歴史上』 50頁、郷土出版社、1982年
- (3) 『佐久市の文化財』(第3版) 45頁、佐久市文化財保護審議会、佐久市教育委員会、2003年
- (4) 『国史大辞典』 60頁、図版6頁、197頁、吉川弘文館、1997年
- (5) 『佐久市志歴史編(二) 中世』 686～688頁佐久市、1993年
- (6) 『郷土の文化財 石造塔』17～27頁、上田市立博物館、1984年



写真2 北西ノ久保石造塔婆群の五輪塔

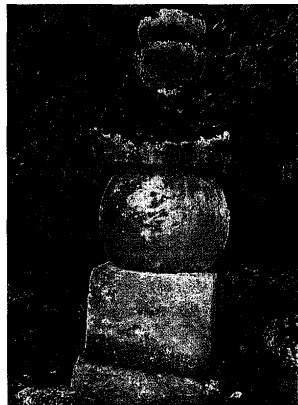


写真3 中禅寺の五輪塔

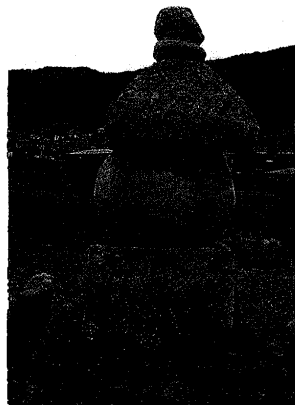


写真4 竹の花五輪塔



写真5 金王の五輪塔